

安全・安心まちづくり東京宣言

都内の刑法犯認知件数は、平成14年に30万件を超え、戦後最悪の水準にあったが、治安の改善に立ち上がった我々の真摯な取組により、平成15年以降漸減し、平成24年には約17万2千件と、我が国が世界一安全であると言われた昭和40年代を下回るなど、東京の治安は回復に向かっている。

一方、社会の変化に伴い、子供や女性、高齢者が被害者となる犯罪が多発し、都民の身近な日常生活を脅かすとともに、いわゆるサイバー犯罪など、新たな犯罪が発生していることから、都民が「安心」を実感できる社会の実現には、これまで以上の努力が求められている。

安全であっても、安心を真に実感することができない今、人々の安心感を醸成していくために、我々はこれから何をすべきであろうか。

「安心」の確保に特效薬はない。各種の治安対策などの「安全」を担保しつつ、安全・安心の原点である、ルールやマナーを遵守する「規範意識の向上」と、地域のコミュニティを確立する「地域の絆の再生」に取り組んでいくことが何よりも重要である。

安全・安心の担い手である、都民や事業者、地域団体、ボランティア、行政、警察などの全ての関係者が、お互いを尊重し、信頼しながら、連携・協力を深め、「規範意識の向上」と「地域の絆の再生」に向けた、途切れることのない取組を続け、地域の力を最大限に発揮させることが、これからの我々に欠かせない。

安全で安心して暮らせる社会の実現は、都民全ての願いである。

また、都民がより質の高い生活（Quality of Life）を享受し、将来への希望を持ち、自由な活動を行う礎ともなる。

東京が誇る「安全・安心」を、子供や孫の世代に確実に引き継ぎ、また、2020（平成32）年のオリンピック・パラリンピック競技大会を控え、誰もが安心して快適に過ごせるまちを創るため、我々は、東京の安全・安心まちづくりに、引き続き、全力を尽くしていくことを決意する。